



～持続性の実現～

2013年9月10日発行 9月号 No. 223

◇本部連絡委員会より「彦田副会長を囲んで」  
その時、頭に残った二つの言葉「地方格差と圧力団体」  
総務委員長 西野 毅〔城東支部（株）誠和〕

私が会議に5分遅れで参加したところから、東ト協の現状として地方の運送会社との運賃競争が話題に！競争の結果は言うまでもなく東ト協事業者は劣勢に回っている運賃だけで荷主に比べられたら敵う訳がない、理由は人件費を含めた運送原価の違いであるトラック本体も我々が使えなくなった環境基準問題を抱えた車両を地方は中古車両として購入できる。

「そう言う事も含め東ト協と全ト協の温度差があるんだよ！」この辺りから彦田副会長の顔付きが仁王さんの形相に・・・「おっ、こっちの顔の方が好きだな！と同時に元気に年を重ねるとは喜怒哀楽が欠かせない」本日の学習成果だと思ながらも話は続く。

「東京近郊の1箇所から積んで地方での1箇所降しの簡単な仕事を安く持って行くんだよ」

「荷主も複雑で面倒な仕事は古くから居る我々に頼んでくるんだな！」

その話にビビッと来た・・・これって昔の日本の製造業と一緒に簡単な物作りは人件費や設備費の安い東南アジアへ拠点を移す。

これは当然の流れであり、そこに日本の製造業者が不満を抱いても仕方が無い。これと同様に地価をベースとした物価構成に関連する費用格差に対し東ト協運送事業者としては受け入れなければならない現実だと思う。

誰にでも出来る仕事で運賃競争をしたら地方に負けるに決まっている負ける喧嘩で体力を消耗するより、誰もやりたがらない手間の掛かる仕事で勝負したら勝つ確率はグッと上がる。私自身が三十余年まえにこの業界に入ったのは軽運送業が始まりで当時の既存の運送業者の運賃や仕事の大ざっぱさを思い出しました。

当時の軽運送は経営者もドライバーも殆どが素人集団で、お客さんからのリクエストは当たり前のように聞いていました。

今思えば運送業としての常識も基本も知らない強さだったと懐かしさを感じます。

その頃の思い出にインクメーカーの倉庫で他社の先輩ドライバーさんから「お前ら何でもやっちゃうゴキブリみたいな運送屋だな」って言われた事。でもそれが有ったから今の会社が業界に残れた礎になった事を珍しくいらいに入社してきた若いドライバーさんや昔の事を知らない従業員に会社の未来の為に伝えて行くのも自分の仕事だなと感じました。

そう考えると、どの業界も近年は25年周期くらいで常識とか基本とかは大きな転換期を迎えるのかなと考える反面私自身も業界にどっぷり漬かっているのかなと反省するしだいです。

確かに問題山積の業界ですが愚痴って解決するのであれば今頃は全て解決しているはず？

物を運ぶという本質から外れないところで、頭と体に汗をかいたらきっとその分旨い飯が食える事を思い出し、その本質を次の世代に正しく伝えることが今の私達がやるべき事ではないかと思いました。

これからが東京の運送屋の知恵と真価が問われる時！宅配とか新しい仕組みは東京から、今まで通りの仕事のやり方や常識にしがみ付いては衰退するだけではないのか、東京の運送屋の自負と知恵を持って、地方から「さすが東京」と言われるように「負けるな！東京」。

但し、環境基準とかに地域格差が有るのはアンフェア、ここは日本という括りでなければおかしいよ！法律的な事は正は政治屋さんにはここは政治屋さんには仕事をして頂かなくては！それが可能に出来る武器を私たちは持っている「1票」です。

区議、都議、国会議員とそれに見合った票を取り纏められれば、彼らに圧力を掛けられる団体に成らなければ又成れば！

各支部に於いて、この事を粘り強く説いて行く事が、今のロジ研の協会活動の優先順位としてこれを高い所に位置付かせられれば明るい業界の未来は向こうから近付いて来るのではと彦田副会長と話が出来た事で更に強く感じています！

◇「国際交流って、大変だよ！」  
広報副委員長・国際交流分科会リーダー 鈴木 貢  
〔葛飾支部（有）すずか梱包運輸〕

うわー、もうすぐ原稿の締め切りだ。ロジ研広報委員長の怖い顔を頭をよぎる。何を書こうかな？

わたしが書ける原稿となると、今現在TTLA(タイトトラック協会)とわがロジ研との関係がどこまで進行しているのだろうかということだろう。ということで、先方の役員の方の Jonatan 君に電話してみた。

実は2週間前に彼からメールが届いて、全ト協の会長をタイの国際ロジスティクスフェアに招待できないかと訪ねてきた。

なんでも、9月4日から行なわれるこのフェスティバルの実行委員会の席上、他のアジア地域からのロジスティックのグループを招待出来ないかとの意見が上がったそうだ。

しかし、私のところに打診のメールが届いたのが8月23日。一週間の猶予しかない。どうやら、根回ししておいてから正式に招待状を発行するつもりだったらしい。人の事を緩衝材に利用しようとしたな。

Jo 君曰く、対日交渉は彼がやることになった。会議の席で突然聞かれたらしく、彼も戸惑ってしまったようだ。これまでの付き合いで何とかならないかということなのだが、今回はあまりにも唐突で、ロビー活動もできそうもないことから、「多分無理だよ」と、前置きをしておいて、全ト協の国際部にメールの転送。案の定、丁重なお断りを入れておくと返事が届いた。Jo 君にこの事を話すと、今後ともオファーは続けていくとの事。あきらめてはいない。

今回は実現できなかったが、習慣も価値観も違う異国の同業者と情報の交換をする場を提供できるようになるなんて、とても素敵な事だなと思いつつ、この原稿を埋めていく。まずはロジ研との交流をしっかりとして持とうよね、Jo 君。ところで、日本にはいつ来るんだ？

◇「＜美食の点呼記録＞・・・⑭」

耐えられない暑さかと思えば、前が見えない大雨でドライバー泣かせの気候である。そんな時こそスタミナをつけて乗り切ってもらいたい。久々の原点回帰四ツ谷から『れば屋』をご紹介します。四谷一丁目交差点、三井ガーデンホテル脇を入り、東貨健保を過ぎた角にある店はその名の通り店のウリはレバー。これが痛風を忘れるほどの美味さだ。串焼きは通常の『レバー』と『せぎも』『あずき』なるものでレバー3兄弟と名付けられている。不定期入荷であるが、白レバ炙りも堪らない。ビールと合わせて尿酸値は青天井である。

他にも、『そり』『あいだ』『おび』『ちょうちん』などの串焼きが楽しめる。ドコの部位かは行って確かめよう！ただ、16時から開いてるから打合せの前にフラリと覗きに行かない事！え、お前には言われたくないって？

四ツ谷れば屋 新宿区四谷1-22-12 03-6380-4988 予約可  
定休日なし 16:00~23:00 (LO 22:30)

<ペンネーム 常時無礼講>

◇スケジュール《○ロジ研行事予定》

○ 9/17(火)15:00~ 正副幹事会合同会議 (東ト総合会館4階)  
17:20~ 第1回オープンセミナー (東ト総合会館7階)  
講師:作家・経済評論家 三橋貴明氏, 評論家 中野剛志氏

9/27(金)16:00~ 三組織連絡会 (東ト総合会館6小)

○10/16(水)~20(日)5日間 (16日夜発/20日朝(未明)着  
温故創新(ベトナム・ホーチミン、カンボジア・バベット)  
☆本年度の「温故創新セミナー」は、「日本ベトナム友好年記念事業」として認定されました。

2013年は、日本とベトナムとの間で外交関係を樹立してから40周年にあたり、「日越共同声明」において、両首脳が合意した「日越友好年記念行事」の一つである「日本ベトナム友好年記念事業」として日本ベトナム友好年実行委員会より認定されました。